

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられる。  
先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感DIは、▲40.8と、前期比で1.8ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は2期ぶりに悪化し、非製造業は2期連続改善した。
- 景況感の先行きDIは▲11.2と、前回調査比で0.2ポイント増加し、3期連続改善した。
- 売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は20.4%で、3期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは当期DIより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和5年4～6月期、「当期」：令和5年7～9月期、「来期(先行き)」：令和5年10～12月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感DIは▲40.8となり、2期ぶりに悪化した。前期比で1.8ポイント減少し、前年同期比では9.4ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲47.3)は2期ぶりに悪化し、非製造業(▲36.0)は2期連続改善した。

#### <景況感DIの推移>

	当 期 (R5.7-9)	前 期 (R5.4-6)	前年同期 (R4.7-9)
全 体	▲40.8	▲39.0	▲50.2
製 造 業	▲47.3	▲40.5	▲48.9
非製造業	▲36.0	▲37.9	▲51.2

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は10.6%（前回調査(R5.4-6月)比+0.7）、「悪い方向に向かう」とみる企業は21.8%（前回調査比+0.4）だった。

先行きDIは▲11.2（前回調査比+0.2）と、3期連続改善した。

#### <来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R5.10-12)
全 体	10.6%	21.8%	▲11.2
製 造 業	12.3%	20.4%	▲8.1
非製造業	9.4%	22.9%	▲13.6

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲17.8（前期比▲3.0）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R5.7-9)	前 期 (R5.4-6)	前年同期 (R4.7-9)	来期見通し (R5.10-12)
全 体	▲17.8	▲14.8	▲29.1	▲3.8
製 造 業	▲19.4	▲14.4	▲25.2	▲2.8
非製造業	▲16.6	▲15.1	▲32.1	▲4.7

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲21.8（前期比▲3.7）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R5.7-9)	前 期 (R5.4-6)	前年同期 (R4.7-9)	来期見通し (R5.10-12)
全 体	▲21.8	▲18.1	▲28.1	▲12.8
製 造 業	▲24.4	▲21.7	▲29.2	▲13.4
非製造業	▲19.8	▲15.3	▲27.2	▲12.4

## 4 採算について

採算D Iは▲26.9（前期比▲0.2）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R5.7-9)	前 期 (R5.4-6)	前年同期 (R4.7-9)	来期見通し (R5.10-12)
全 体	▲26.9	▲26.7	▲40.6	▲17.2
製 造 業	▲28.7	▲28.4	▲41.7	▲15.2
非製造業	▲25.5	▲25.4	▲39.8	▲18.7

## 5 設備投資について

実施率は20.4%となり、3期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期ぶりに減少し、非製造業は2期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R5.7-9)	前 期 (R5.4-6)	前年同期 (R4.7-9)	来期見通し (R5.10-12)
全 体	20.4%	19.8%	20.3%	18.8%
製 造 業	24.6%	25.0%	23.5%	22.8%
非製造業	17.3%	15.7%	17.9%	15.9%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・中国経済の減速の影響を受けて関連する受注が落ち込んでおり不況である。
- （輸送用機械器具）・半導体不足が解消された影響もあり各メーカーからの受注が改善しており好況である。
- （プラスチック製品）・多くの分野で動きが弱く、業界全体として不況である。
- （食料品製造）・コロナ禍の巣ごもり消費の特需が無くなったこともあり、景況感は普通である。
- （印刷業）・企業や自治体での印刷物の使用量が減っており、不況である。
- （百貨店）・インバウンドの影響もあり、業界全体として好況である。
- （商店街）・前年比では良くなっているが、コロナ前の水準には戻っておらずどちらとも言えない。
- （建設業）・工事の引き合いは堅調だが、受注価格で折り合わないことも多く、どちらとも言えない。

### 【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・コロナ関連の医療器具の特需がなくなり、売上高は前期比で10%程度減った。
- （金属製品）・半導体関連の受注は低調だがEVの急速充電器等新規の受注もあり売上高は増加した。
- （食料品製造）・前期から価格転嫁が進んでおらず、採算性はほとんど変わらない。
- （印刷業）・原材料費の高騰に価格転嫁が追いついていないため採算性は悪化した。
- （スーパー）・客数、客単価ともに増加し売上高は増えたが、値上げの影響から販売点数は減少した。
- （情報サービス業）・人件費の上昇分の価格転嫁について理解が得られず、採算性はほとんど変わらない。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体分野の市況は年内更に悪化する懸念あり。今後の見通しは不透明である。
- （輸送用機械器具）・生産回復により今後注文が増えるとの話も聞くが、現状定かではない。
- （食料品製造）・足元で堅調な需要が物価高で今後落ち込む懸念もある。人手不足も当面続く。
- （印刷業）・ペーパーレス化に加え、紙の価格高騰もあって当面厳しい状況が続くとみている。
- （商店街）・行動制限緩和の影響やイベントの再開により、良い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・観光需要の回復により、引き続き良い方向に向かうとみている。